

【全訳】イタリア人による速い車（スポーツカー）への愛情は（もはや）伝説のようなものだ。しかし（スポーツカーの）魅力は、現在の不況に対する防御策にはなっていないようだ。

イタリア自動車ディーラー連盟から出てきた新しい数字は以下のことを示している。すなわち、フェラーリやマセラティなどの、イタリアで最も有名な高級スポーツカーは、昨年1年にわたり、イタリア国内での販売が急落することを経験したということ。フェラーリについてはマイナス56%以上、マセラティについてはマイナス72%という数値だ。

もちろん、販売された自動車の実数の数も、ごくわずかなものだ。驚くことではないが、昨年はほんの248人のイタリア人がフェラーリを買うためにしぶしぶ大金を払ったが、ひょっとするとこの年は一台平均で30万ドルまでの出費に匹敵する分のフェラーリ購入費となったであろう。

（イタリア）自動車ディーラー連盟は、この販売額の低下の原因を高い（自動車取得などの）税金のせいだとして非難した。

しかし、より貧しいイタリア人たちが、より豊かな同胞たちが支出を控えようとしているといニュースを聞き、典型的な、つかの間の他人の不幸を喜ぶ気持ちを表すかも知れないのだが、だからといってより貧しいイタリア人たちがいい気味だと言える時間はあまりない（というのが現実だ）。

公式の数字が最近以下のことを示した。すなわち、ほぼ1/3のイタリア人が貧困に貧しており、その一方で平均的なイタリア人家族は、追加の税負担となる585ユーロに備えて覚悟を決めつつあるということ。このように、イタリアの貧困層にとっても、イタリアの富裕層が消費を抑えていることは、決していい結果を及ぼさないのだ。）